

会 議 録		令和7年1月20日作成	令和10年3月末日廃棄
会議名	京都府亀岡警察署協議会（令和6年度第3回）		
開催日	令和6年12月3日（火曜日）		
時 間	午後3時30分から午後5時45分までの間（135分）		
場 所	京都府亀岡警察署 講堂及びつつじヶ丘交番		
出席者	湯浅会長、木曾副会長、栗山委員、國府委員、櫻間委員、サミュエル委員 内藤委員、藤本（妙）委員、藤本（祥）委員、前田委員、矢田委員 計11人 ----- 署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長 交通課長、警備課長、広聴相談係長 計10人		
諮 問 事 項	1 交番施設及び装備品の見学、交番襲撃対応訓練の見学 2 若手警察官との意見交換		
会 議 内 容	1 会長挨拶 司会 警務課長 2 署長挨拶 3 協議 司会 会長 諮問事項説明 (1) 交番施設及び装備品の見学、交番襲撃対応訓練の見学～地域課長 (2) 若手警察官との意見交換 【委員】先ほど、つつじヶ丘交番で緊迫した訓練を見学し、また、やる気に満ちた若い警察官と話をする機会をいただき、市民として非常に頼もしく感じている。警察官は、いつ危険な場面に出くわすか分からない。本当に厳しい勤務の中で頑張っておられ、我々市民としては感謝に堪えない。時には警察官の不祥事というニュースを耳にすることもあるが、私は常に「警察署協議会は警察の応援団だ。」という気持ちでこの会議に臨んでいる。警察署協議会委員はいろいろな立場から皆さんを応援するので、遠慮なく私たちに頼り、今日は思うまま喋っていただきたい。 【委員】両親が警察官という方もおられるようだが、警察官という職業を選択されたのは、身内に警察官の方がおられたからだろうか。 【委員】警察官は時として危険な現場に行かなければならないため、身内の方の社会に対する献身的姿を見て決心された人が多いのではないかと勝手に思っていたが、身内に警察官がいない人の方が多かった。皆さんは、警察官の仕事に対し、未知の状態であるも一つの職業として見つめ、考え、それぞれの理		

会 議
内 容

想を持って就職されたことが想像される。我々が応援と言っても、正直、何ができるか分からないが、何かの手掛かりが必要な時、少なくとも私たち警察署協議会委員という味方がついていてということ覚えておいてほしい。

【委員】仕事はやりがいをもって行っていくのが一番いいと思う。時には苦情を受けることもあるだろうが、市民からの感謝の言葉など、成功体験を自身の糧としてこれからも頑張ってもらいたい。

【委員】少し前、兵庫県警察学校の訓練風景をテレビで見た。その中で、学生の皆さんが本当によく走っておられるのを知り、感心した。厳しい訓練をくぐりぬけてこられた皆さんだからこそ、私たちは信頼を寄せている。亀岡市のために、これからもよろしくお願ひしたい。

【委員】以前、私の職場でアルバイトをしていた女性から、「私、警察官になります。」との報告を受けた。彼女は現在、亀岡警察署に勤務されており、つい先日、その勤務姿をお見掛けした。彼女は学生の頃とは比べ物にならないくらい頼もしくなり、彼女の成長ぶりを嬉しく感じた。ここにおられる皆さんも、それぞれの夢、希望、そして覚悟を持って警察官になられたことと思う。警察官が臨場される荒れた現場では女性警察官がターゲットになることも多いと思うが、どうか身体とメンタル面に気を付けて職務に励んでほしい。

【委員】交番襲撃対応訓練を見学させてもらい、非常に驚き、感心をした。改めて警察官の仕事は危険と隣り合わせだということ認識した。皆さんは、既に危険な現場に遭遇する可能性を秘めながら毎日の勤務に就かれている。どうか怪我や事故に遭遇することの無いよう、十分気を付けてほしい。

私が若手の皆さんにお聞きしたいこととして、警察官となって自分自身が成長したこと、スキルアップしたことを教えてほしい。

【警察】私は当初に比べて物怖じしなくなった自分を感じている。約1年勤務する中で、最初は荒れた現場に驚いて体が動かなかったが、先輩の対応や会話などを見ているうちに、自分なりの対応方法を模索し始めた。少しずつでも対応ができるようになると気持ちにも余裕が生まれ、気が付いた時には臆することなく一歩前に出ることのできる自分がいたという感じである。

【警察】私は交番に勤務してまだ2箇月だが、今まで22年間を生きてきた中で、この2箇月間は人との関わりが非常に濃厚であったと感じている。以前の自分と比べ、社会人としての会話能力が向上したと思う。

【警察】私は、「スキル」というものではないが、刑事になって以降、妻から「なんか取調べを受けてみたい。」と言われるようになった。会話をしていると、「いつ」「どこで」と聞き返してしまうようで、それは全容を端的に把握しようとするクセがついたためだと思う。

【警察】私は交通課員となって以降、以前にも増して交通違反や交通事故を誘発するような運転をする車に目がいくようになった。具体的には、妻の運転する車の助手席に乗ると、「今の一時停止、もっと確実に停まって確認しないとダメ。」「無理に割り込むと事故を誘発する。」などと注意するようになった。

【警察】私は会計課で勤務しており、警察官とは違う職種だが、「私たちは人と接す

る仕事をしている。」ということを強く感じている。その上で私が特に気を付けているのは「伝える」ということである。同じ内容でも言い方を工夫し、その人に対して適切な言葉を使うことが、仕事をしていく上でとても大事だと考えている。

【委員】私は学校教育に携わっているが、以前、小学校に勤務していた時、登下校指導に就くといつもパトカーが巡回してくださり、我々職員はとても安心して指導ができた。不審者情報が入った時には普段にも増して何度もパトカーを見掛け、とても心強かった。その気持ちは児童たちも同じようで、パトカーが通るとみんな嬉しくなって手を振っていた。小さな小学校では駐在所の方が学校行事によく来てくださり、児童全員の名前を覚えておられた。児童・父兄とお巡りさんの気持ちが行き交い、私は「そういう関係性っていいな。」と常々思っていた。

私が皆さんに、「今、この職業に就かれて意気揚々とされていると思うが、逆に理想と違ったということはなかったか。」ということと、私が現在、中学校に勤務していることもあり、「中学生に向けて、今、中学生の時期だからこそ、これをやっておくべきだ。」ということの2点について答えてほしい。卒業式で生徒に話をしたいと思うので、若い皆さんにそのヒントをいただきたい。

【警察】理想と違ったことは、近年、働き方改革が言われるようになり、若手としては根を詰めて早く仕事を覚えたいと思っても、一定期間中に一定数を休まなければならないことである。若いうちは仕事に没頭して早く一人前になりたいと思っているが、その点がもどかしく感じる。

【警察】子供の頃、警察の仕事は悪い犯人を捕まえて感謝されると思っていたが、単純にそうではないということである。思いもよらず苦情を受ける場合もあるし、仕事を進めていく上では様々な困難が目の前に立ちはだかる。私の両親は警察官で、私が警察官を受験する際、そういう外見では分からない苦労話を聞かされた。両親は他の職業に就くことを望んだが、私は警察官を選んだ。

【警察】私は幼い頃から警察官という職業を憧れの目で見えていたが、持っている感情は人それぞれであり、万人から理解や協力を得られるわけではない。時には厳しく批判を受けることもあり、そういう立場であるからこそ、自分自身を常に律していかなければならない。

【警察】私は事務を行う仕事と思って入ったが、窓口業務も存在することを勤務して初めて知った。

【警察】中学の頃に行っておくべきことは、とにかくにも勉強だと思う。私自身、中学の時には学校の教科を「こんなもん、大人になってから何が必要やねん。」と思っていたが、基礎学力は社会で絶対に必要である。また、仕事を始めると知らないことばかりで勉強は一生ついてまわる。中学・高校の頃の勉強は考察力や学ぶことの訓練となる。

【警察】私は、よく食べてよく寝ること、つまりは健全な身体づくりだと思う。働

き始めると一にも二にも体が資本なので、成長期の頃には運動・食生活・睡眠に気を付けてほしい。

【警察】もし警察官を目指す人がいれば、運転免許を取る前から道路標識に興味を持ってほしいと思う。私はそれらにあまり詳しくなかったので、早くから標識のことを知っていれば非常に役に立ったと思う。

【警察】やるべきことをしっかりとやれば、あとは遊ぶこともしっかりやってほしいと思う。中学時代にしか作れない思い出を作してほしい。

【警察】私は、好きなことをとことんやってほしいと思う。ただ、それらは親から大きな協力を得ているということを忘れないでほしい。

【委員】私は大学で教鞭をとっているが、最近、世間では闇バイトが話題となっている。それらも含め、大学生にアドバイスできることがあればお願いしたい。

【警察】今はスマートフォンが一人1台の時代なので、SNS関係に注意してほしい。闇バイトを含め、現在、若者がトラブルに巻き込まれるものでは、これが一番多いと思う。

【警察】大学生であれば自動車を所有している人もいると思うが、若い頃から基本に忠実な運転を心掛けてほしい。人は年を重ねるごとに我流の運転となりがちで、その反面、他人の運転を見て腹を立てたりもする。みんなが免許を取った時を思い出し、基本を守れば、交通は円滑となって事故も減ると思う。

【警察】私が忠告したいのは、「楽しんで稼げる美味しい話は無い。」ということである。私も大学の時にそんな話を聞いて心が動いたことがあったが、よくよく考えると危なかったなと思う。だから、一呼吸し冷静に考えて、人生を台無しにしないでほしい。

【警察】私は、想像力をもって行動してほしいと思う。今の状態に満足するのではなく、例えば資格を取ることで将来の可能性を広げることができる。目先のことだけを考えるのではなく、想像力豊かに人生を生きてほしい。

【委員】私はカナダ出身であるため、警察に対する印象が日本人とは異なる。

カナダは治安が悪いせいか、警察と市民との距離が遠く、警察官から職務質問を受けると非常に緊張する。だから私は亀岡市に来て、この治安の良さと警察の身近さにとても驚いた。ただ、先ほど緊迫した交番襲撃対応訓練を見せていただのように、いくら治安が良くても時にはそういう現場に出くわすこともあると思う。そういったことに対する皆さんの気持ちや心構えを教えてください。

【警察】確かに日本は海外に比べて治安が良いが、過去には警察官を襲って拳銃を奪うなどの事件も発生している。我々はいつ何時、そのような現場に出くわすか分からないため、例えば遺失拾得の取扱いや地理案内などでも気を抜くことなく対応できるよう、日々の訓練と注意力を絶やさないよう努めている。

【警察】私は交番への来訪者に対し、親切な対応の中にも決して気を抜かないよう気を付けている。

【警察】警察が取り扱う方はほとんどが善良な方であることから、警戒しすぎるあまり不快感を与えてしまってはいけない。だから私は要所要所で確実に自分

の身を守れるよう、一つ転べば危険に転じるような場面に対して注意をしている。

【委員】皆さんは市民の治安を守るという崇高な職務である反面、苦情や批判、時には罵声を浴びることもあるだろう。しかし、そんな時でもへこまずに職務を全うする信条的なものを持っておられると思うので、参考にその辺を教えてください。

【警察】私は相手が怒っている場合、その理由の理解を冷静に考えるよう努めている。それもより良い職務を行っていく上での勉強だと思う。

【警察】私も人間なので罵声を浴びれば感情を乱す。しかしながら、それは職務の中で受けているのであり、給与をもらって仕事をしている以上は冷静かつ適切に対応していかなければならない。

【警察】私はまだ経験が浅いので、そのような場面に出くわしたことが少ないが、心掛けているのは、自分の一言一言に責任を持って、ゆっくりと話をすることである。

会 議
内 容

【警察】私は基本的に敬語で丁寧話すことを実践している。相手がタメ口でも警察官が同じ口調で話すのは違うと思う。常に好感が持ってもらえる言葉遣いを心掛けている。

【委員】皆さん素晴らしいお答えで、参考というよりも勉強になった。

【委員】近年は個人情報を守るがゆえに、自治会では昔と比べて格段に地域住民の情報が入りにくくなった。だから、警察は気軽に地域住民を訪問して関係を深め、事件・事故や災害時などに役立つ情報をどんどん把握してほしい。それが地域住民のためであり、また、警察の業務をスムーズに遂行するための方法であると思う。地域住民は皆さんの制服姿を見れば安心する。皆さんはそういうツールを持っているのだから、それを活かしてこれからも頑張してほしい。今日は、若い皆さんがしっかりとした考えを持っていることを知り、非常に頼もしく感じた。

4 事務連絡

令和6年度第4回京都府亀岡警察署協議会は、令和7年2月中に実施予定である。

以上

第3回京都府亀岡警察署協議会の開催状況

